

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	地域支援事業の推進
現状と課題	
<p>剣淵町の総人口は年々減少しており、平成28年(3,293人)から令和2年(3,019人)の5年間で8.3%(274人)減少しています。一方で高齢者人口は増加し、令和2年に40.6%に達しました。介護保険事業においては、令和2年の要介護認定率が17.5%となり、今後も進む高齢化により要介護認定率は、さらに上昇すると見込んでいます。こうした背景を踏まえ、第8期剣淵町高齢者保健福祉計画・剣淵町介護保険事業計画において、要支援・要介護状態の防止を重点に介護予防の取組みを推進しています。</p>	
第8期における具体的な取組	
<p>無理なく、楽しく運動する習慣を身につけてもらえるよう、「元気アップ教室」「しゃきっと体操くらぶ」「元気はつらつくらぶ」を実施します。また、リハビリテーション専門職が関与することで、より効果的な運動プログラムを提供し、運動機能向上を図ることで要介護状態になることを予防します。</p>	
目標（事業内容、指標等）	
<p>●元気アップ教室 基本チェックリストを実施した高齢者から運動の機能向上が必要と判断した者及び運動教室の参加希望があった者に対し、理学療法士による事前アセスメントと事前評価に基づき器具を用いた運動を指導し、体力測定等の事後アセスメントと事後評価により運動機能の向上を図る。 《令和2年度》実参加者数10人、延回数16回 ⇒ 《令和5年度》実参加者数20人、延回数32回</p>	
<p>●しゃきっと体操くらぶ 在宅の高齢者に対し要介護状態となることや活動性の低下を予防するため、理学療法士が作成した集団運動プログラムを実施し、身体機能の維持・改善を図る。また、知的活動や栄養改善を織り交ぜたプログラム、健康に関する講話を実施し、認知症やフレイル予防、介護予防に関する知識の普及も図る。 《令和2年度》実参加者数55人、延回数39回 ⇒ 《令和5年度》実参加者数70人、延回数50回</p>	
<p>●元気はつらつくらぶ 在宅で閉じこもりのおそれがある高齢者に対し、理学療法士が作成した集団運動プログラムを実施し、身体機能の維持・改善を図り、要介護状態となることや活動性の低下を予防する。また、知的活動や栄養改善を織り交ぜたプログラム、健康に関する講話を実施し、認知症やフレイル予防も図る。登録制で「しゃきっと体操くらぶ」よりも年齢層が高く、ハイリスクの方を対象とする。 《令和2年度》実参加者数50人、延回数39回 ⇒ 《令和5年度》実参加者数50人、延回数50回</p>	
目標の評価方法	
<p>● 時点 □中間見直しあり ☑実績評価のみ</p>	
<p>● 評価の方法 実績による評価</p>	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和3年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容	
自己評価結果	
課題と対応策	

後期（実績評価）

実施内容	
●元気アップ教室	《令和3年度》実参加者数10人、延回数9回
●しゃきっと体操くらぶ	《令和3年度》実参加者数69人、延回数34回
●元気はつらつくらぶ	《令和3年度》実参加者数45人、延回数33回
自己評価結果	
●元気アップ教室	【○】
●しゃきっと体操くらぶ	【○】
●元気はつらつくらぶ	【○】
<p>新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置による事業中止が影響し目標に至らなかったが、それ以外の期間においては感染防止対策を徹底した上で実施し、電話等による参加呼びかけも行ったことにより一定の実績があった。</p>	
課題と対応策	
●元気アップ教室	<p>事業の実施により運動への意識の向上や継続の意欲が見られた人がほとんどだったが、その後実際に運動を継続できているか確認ができていない人もいるため、定期的な呼びかけ等により引き続き運動を継続して行ってもらうことが課題である。</p>
●しゃきっと体操くらぶ	<p>体操教室時や休止中の声かけで自主運動をおこなってくれている人は徐々に増えているが、参加者全体でみるとまだ少ない状況。継続的な運動に繋げるため、このような気軽に参加でき、集団で体操が行える教室を継続して実施する必要がある。</p>
●元気はつらつくらぶ	<p>今年度はサポーター2名に入っただき、転倒など体操中の事故防止に努めた。感染対策も徹底し感染拡大防止に努めていく。参加者の状況を見て適宜、介護保険サービスへの移行も見極めていく。参加者の心身機能が維持・向上できるよう多面的なプログラムを実施していく。</p>